



「色、いろいろ」

■秋の長雨、雨の日のお楽しみ
 長雨は憂鬱ゆううつなもの。でも、雨の日ならではの楽しみもあり。たとえば、虹。雨後の晴れ間に七色の美しい虹がくつきりと空に架かっているのを見ると、思わず見惚れてしまいます。魅入られて、つい薄れて空に溶けてしまうまで見続けてしまったことも…。そのはかなさも、虹の魅力のうちかもしれません。虹の七色は、実はもともと日光の中に含まれています。というか、陽の光は、虹の七色が重ね合わさってできているのです。絵の具の場合は、いろいろな色を混ぜるとだんだんと黒くなってしまうですが、いろいろな色の光を重ね合わせると、だんだん太陽の光の色、つまり無色透

明になっていきます。

■色は陽の光のめぐみ

漆黒の闇の中では、私たちはモノを見る事ができません。モノがね返す光を眼がキャッチして、初めてそれが見えるのです。また、モノの色は、光の中にいろいろな色があって初めて見えるもの。赤いリンゴは、表面の色素が赤い光を選択的にはね返すので、赤く見えます。緑の葉っぱは、光合成に使われない緑色の光だけをね返すので、緑色に見えます。照らす光の中に赤や緑の光が含まれていなければ、リンゴや葉っぱの赤や緑を見ることはできないのです。

■ワンダフル・ワールド

葉の緑、海の青、生物の色、いろいろな石の色。自然の色には意味があり、その色を生みだすしくみがあります。雨後の晴れ間に、お散歩に出てみるのはいかがでしょう？濡れて鮮やかに浮かび上がる身の回りの色には、きつと新しい驚きがいっぱい。もしかししたら虹に出会えるかもしれませんし、ね。

お知らせ

10月15日(土)、豊川市ジオスペース館プラネタリウムで「光と色のものがたり」を行います。詳しくは生命の海科学館ホームページで！



「戦前の観光会議」

め、いろいろ苦心していた様子うかがえます。

昭和初期は、蒲郡が観光都市として大きく飛躍した時期でした。この間の出来事としては、昭和4年の三河三谷駅開設、7年の竹島橋架橋、9年の蒲郡ホテル(現在の蒲郡プリンスホテル)開業などが挙げられます。「観光蒲郡」の基礎はこの時に固められたといえるでしょう。

また、戦前には五井山の頂上に、地下は食堂・売店、1階は大ホール、2階は宴会・宿泊場、3階は展望台とする大型の観光施設「蒲郡城」を築造し、ふもとからロープウェーで登れるようにするという壮大な計画もあったそうですが、これは日中戦争が始まったことにより実現されませんでした。五井町の妙善院の北東にある豊川用水ポンプ場が、ロープウェーの駅がつくられる予定地だったと地元では伝えられています。



昭和12年ごろの蒲郡港と街並み